

(様式)

令和3年度 学校園評価 学校園関係者評価書

園名	三木市立緑が丘東幼稚園
----	-------------

1 幼稚園教育目標

『思い合いのある 心豊かな子どもたちの育成』 ・健康で明るく最後までがんばる元気な子 ・自分の思いが素直に表現でき、友だちの思いを受けとめられる子 ・誰とでも仲良く遊べる子

2 本年度の重点目標

○友だちとの関わりの中で、自己発揮しながら、心を動かして主体的に遊べるような環境づくりに努め、魅力ある幼稚園をめざす。 ○『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を意識しながら、支援の方向性と学びを明確にし、保育実践をする。 ○保護者や地域との連絡や情報発信等により、地域に開かれた幼稚園をめざす。

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
教育課程・指導	①一人一人の内面を読み取り、発達に即した指導を行う。(写真によるドキュメンテーションの実践、個人支援案の作成と共通理解) ②友だちや異年齢児との遊びを通して生きる力の基礎を育成する。(4・5歳児合同保育の計画・実施) ③基本的生活習慣を身につける。 ④給食や栽培活動等を通した食に関する指導及び食育の推進を行う。	①毎日の職員会議では、保育中の写真を見ながら、園児の様子や状況等の確かな情報を全職員で共有することで、一人一人の幼児理解に努め、評価や課題を検討している。(写真は、クラスだよりやホームページ、連絡帳にも活用) ②園児が遊びの魅力を感じ、「やってみたい」と心が動くような環境構成(もの・こと・ひと)を工夫することで、子どもたちから要望やアイデアが出てきた。(夏まつりごっこ・くすのきホテルごっこ・水鉄砲バトル等) ③個々の発達段階に即し、肯定的な言葉をかけながら、基本的生活習慣の確立をめざしている。特に、『朝のあいさつ』に関しては、笑顔で迎え、目を合わせることを心がけていくことで、自発的にできるようになっている。 ④給食の写真と、栄養教諭からのメッセージを毎日掲示したり、自園栽培をしたりして、園児や保護者の食への関心が高まるようにしている。今年度は、夏野菜(なす、トマト、トウモロコシ、キュウリ、オクラ、パプリカ、ピーマン)、タマネギ、ジャガイモ、サツマイモ、ダイコン、ヤーコンの栽培を行い、各家庭で味わうことができた。	B	①写真を見ながらの職員会議は、幼児理解等に大変効果があった。時間の確保をし、継続していく。 ②アイデアを自由に出せ、受け入れてもらえる安心感を大切に、友だちと実現できる楽しさへつなげる。 ③基本的生活習慣の確立には、教師の表情や言動が大きく影響する。今後も子どもたちの自発や意欲につながるような雰囲気づくりに努める。 ④今後も食への関心が高まるような栽培活動を行い、丈夫な体づくりや免疫力アップ、偏食克服へつなげる。
道徳・人権教育	①様々な体験活動を通し、相手を思い合う心や規範意識の芽生えを育てる。 ②身近な自然や動植物にふれ、命を大切にすることを育てる。 ③友だちとの関わりの中で、葛藤する経験をしたり、折り合いをつけたりしながら、共に生活しようとする力を育成する。 ④「少人数だからこそ楽しい遊び」を検討し、自己発揮したくなる環境づくりに努める。	①日常生活の中で、年長児が年少児に進んで関わりたくなる環境を構成し、子ども同士のそれぞれの成長につなげている。(給食活動を合同で行うことで、年長児が年少児の世話をしたり、手本を見せたりすることができ、年少児のマナーが身につくとともに、食欲もアップしている。) ②旬の自然物や虫や小動物等との直接経験を重要視している。子どもたちの驚きや発見、つぶやきをキャッチし、共感するとともに、収集や飼育、図鑑調べ等の<夢になれる機会>も大切にしている。 ③「葛藤や挫折」「我慢や譲渡」等の経験は、“子どもが育つチャンス”“非認知能力の育ち”であることを保護者と共通理解しながら、乗り越えようと頑張る様子を園と家庭とで支えている。 ④子どもたちが教師に求めたり、心が動いたりした瞬間の“時機を見逃さない”ことが重要であり、一人一人のその時機を受けとめているか、活かしているかどうかを教師間で確認しながら、環境構成を行った。	B	①年少児と年長児のお互いの存在が、喜び・活気となり、一人一人の自信となるような環境づくりをする。 ②教師は、子どもの気づきやつぶやきをキャッチできるようにアンテナを立て、共感しながら思いを受けとめ、自己発信する機会をつくり、充実感が味わえるようにする。 ③目には見えない心の育ちを表情・態度・言葉等から感じ取り、保護者と共感、協同しながら支えていく。 ④“時機を逃さない”受容と応答ができるように、教師間の連携を行う。
特別支援教育	①一人一人の独自性や違いを受けとめながら、心もちへの共感を大切にするとともに、共に学び、育ち合える仲間関係づくりをする。 ②関係諸機関と適切な連携を行い、実践する。	①個々の「心もち」に対する受容に努め、安心して自己表現できるクラスづくり・園づくりをめざしている。時には、1対1のトラブルもあるが、一人一人が<自分の気持ちを言葉で伝えること><態度で表現すること><友だちの思いを意識して聞くこと>が、安心してできるように努めている。 ②市の巡回相談、園内研修会による講師の招聘等により、実際の子どもの集団生活の様子から、適切な支援の方向性や必要な配慮について研修を深めた。	B	①クラスの目標だけでなく、個々の到達点を具体的に定め、個に応じた指導や支援を心がける。 ②専門機関との連携は、幼児の発達段階に即した適切な支援を行うために重要である。今後も適時性を計り、計画・実施をする。
家庭・地域との連携	①地域に開かれ、信頼される幼稚園をめざす。 ・家庭や地域の方々への情報発信、協力体制 ②地域の未就園児への交流の機会を提供する。 ③他校種との連携をする。(少人数を利点とした交流の工夫)	①保護者へは、降園時のスピーチや連絡帳への写真添付、クラスだよりの発行等により、教育活動や園児の様子が具体的に伝わるよう努力し、信頼関係の構築を図っている。老人会との「花いっぱい運動」(2回)、公民館(青山・緑が丘町)の作品展、親子体操教室に協力することができた。地域の方からは、ウサギの餌・菊の花・大きな松ぼっくり、新しいボール等をいただいたり、夏まつりの「輪投げ屋」や新年の“お茶会”の招待を受けたりして、貴重な体験をすることができた。 ②毎日の園庭開放には、地域の未就園児や1号認定児の利用もある。10月～12月には園児と遊ぶ会『たんぽぽ広場』と未就園児サークル『きしゃぽっぽ』を実施した。 ③感染症対策を講じ、3園交流(自由が丘幼・広野幼)、緑が丘東小学校1・2年生やこども園との交流、三木北高校と環境教育の連携を行った。特に、小学生との交流は、その憧れ、成長への意欲や期待等を感じることでできる貴重な経験となっている。(緑が丘小・志染小1年生との交流は、感染症対策のため中止)	B	①保護者や地域の方々など、たくさんの人に支えられながら成長し心が豊かになっている。このさまざまなかわりに感謝の気持ちを忘れずに、今後も取り組んでいきたい。 ②今後も感染症対策に配慮しながら、地域の子育て支援の場として開放し、年下の子への思い合いの心の育成につなげる。 ③少人数であることをメリットと捉え、今後も、感染症対策に配慮しながら、異校種・異年齢との交流・連携を積極的に計画・実施する。
安全教育 防災教育	①新型コロナウイルス感染予防対策を徹底して行う。 ②園舎遊具等の安全点検を徹底して行う。 ③危機管理マニュアルの活用と実践的な訓練(火災・地震・不審者等)を実施する。 ④家庭と連携し、危機管理体制を推進する。 ⑤市教委と連携し、危険箇所等の整備と施設管理体制の充実を行う。	①「けんこうかんさつカード」による毎朝の検温、体調観察の実施、マスクの着用、手洗いの徹底等、家庭と園で習慣化することができている。また、昨年度考案した「感染予防グッズ」を見直し、さらに子どもが活用し易いものに改善した。 ・着脱しやすく、清潔なマスク掛け ②園庭や遊具等の安全点検を定期的に行い、『遊具の安全チェックリスト』による危険箇所等の早期発見と対策に努めている。(登り棒の限界点をマーキングし、保護者にも注意喚起をしている。) ③④火災・地震・不審者侵入、保護者への引き渡し等、様々な場面を想定し、『園児も職員も、自分の命を守り、みんなで絶対に生き延びる』という強い意識を持ち、真剣に訓練を繰り返している。 ④⑤昨年度改善した『ヒヤリハット幼稚園マップ』『ヒヤリハット・けが等発生報告書』を活用することで、場所や状況等が全職員に周知できるようにし、けが等の防止に努めている。	B	①マスク着用と手指消毒等、頑張っていることを具体的に認め、日々、継続できるよう支える。 ②安全点検を継続し、目視や触診だけでなく、聴診も行う。遊具の周辺にも注意を払う。 ③④災害は、いつ起こるかわからないことを意識し、日ごろから信頼関係(子ども同士、子どもと教師、職員同士、保護者と職員)を築き、チームワーク力を高める。 ④⑤ヒヤリハットを見逃さないように留意し、全職員で、日々の安全確保と危機管理意識を高めていく。

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

評価方法は、概ね妥当である。 ・昨年度の達成状況に改善を加えた評価書になっており、進歩の跡が見られる。 ・保護者や教職員のアンケート、ようちえんだより等、評価するための資料が充実している。
--

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
【教育課程・指導】…評価は概ね妥当である。 ・めざす園児像「明るく元気な子・表現できる子・遊べる子」に向かう保育内容が高く評価できる。 ・自園栽培によって、野菜を苗から育てることで偏食が減り、食育にもつながっている。 ・一人一人を大切にしたいきめ細やかな保育を今後も続けていただきたい。
【道徳・人権教育】…評価は概ね妥当である。 ・命の大切さと共に「葛藤や挫折」「我慢や譲渡」等の経験を“子どもが育つチャンス”ととらえる保育は、すばらしい。 ・園では、子ども同士の関わりの様子を見守りつつ、「自分たちで解決していく力」を育てている。今後も継続して欲しい。
【特別支援教育】…評価は概ね妥当である。 ・園児一人一人に寄り添い、どんなに小さな変化も見逃さない教師のまなざしを、今後も持ち続けて欲しい。
【家庭・地域との連携】…評価は概ね妥当である。 ・保育終了後の園庭開放時にも、保護者同士の交流があり、保護者との連携は十分にできている。 ・地域との連携については、コロナ禍が収束した後、活発に実施できると期待できる。今後も様々な工夫を重ねながら、家庭や地域との連携を深
【安全教育・防災教育】…評価は概ね妥当である。 ・入学前から、様々な防災訓練を経験でき、また、感染症対策(手指消毒等)が習慣化できていることは大変良い。 ・日頃、培われてきた家庭、地域とのつながりを、安全・防災教育に是非活かしていただきたい。

